

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷四第

行發日一月三年六正大

論說

資本	文學博士	內田銀藏
植民地ノ分類ニ就キテ		山本美越乃
支那經濟思想ノ出發點(一)	法文學士	小島祐馬
體質廢頽問題(二)	法學博士	財部靜治
經濟心理學ノ組織的研究(三)		米田庄太郎

時事問題

取引所増資問題	法學博士	戸田海市
米獨斷交ト我經濟界	法學博士	小川郷太郎
毛羊問題	法學博士	神戸正雄

雜錄

經濟雜話(九)	法學博士	田島錦治
米國鐵道從業者八時間勞動問題	法學士	河田嗣郎
露西亞ノ國民經濟ニ於ケル歐洲的要素		米田庄太郎
維新後ノ戶數ト人口トノ關係	法學士	本庄榮治郎
あゝのるどといんびト經濟書	商學士	武藤長藏
佛蘭西財政及經濟學者ばーりゆー逝ク	法學博士	神戸正雄

新著紹介

經濟論叢

第四卷 第三號 (通卷第二十一號) 大正六年三月發行

論 說

資 本

内 田 銀 藏

資本トイフ語ハ、日常ノ用語トシテ、マタ學術上ノ用語トシテ、場合ニ應ジ、種々ノ意義ニ使用セラル。其ノ用法ノ種々ナルハ、畢竟之ニ對應スル種々ノ異リタル概念アレバ也。ソレ等ノ種々ノ用法ハ、何レモ其ノ由テ來ル所アリ、マタソレソレ其ノ存在ノ理由アルコトニシテ、妄リニ一ヲ探リテ、悉ク其ノ他ヲ捨ツベキニ非ズ。其ノ中ノ一ニ該當スベキ定義ヲノミ真ナリトシ、其ノ他ハ悉ク探ルニ足ラズト速斷スルガ如キハ、予輩ノ與セザル所ナリ。同一ノ語ト雖、異リタル用法ニハ、ソレソレ異リタル解釋ヲ要ス。同ジク資本トイフト雖、實ハ場合ニ應ジ、種々ノ異リタル概念ヲ表示ストセバ、其ノ異リタル概念ノ各々ニ就キ、ソレソレ異リタル定義ヲ與ヘザルベ

カラザルナリ。

同時ニ予輩ハ同一ノ語ニシテ種々ノ異リタル意義ヲ有スルトキハ、爲メニ混雜ヲ生ジ、學問上動モスレバ誤解ヲ來タシ、其ノ不便鮮少ニ非ルコトヲ認ム。故ニ資本トイフ語ニ數多ノ異リタル意義アリトスレバ、成ルベク其ノ各々ニ特別ノ名稱ヲ附シテ之ヲ區別シ、以テ混雜ヲ生ズルナカラシメ、誤解ヲ防キ、思想ノ錯雜ヲ避クルニ若カザルナリ。

舊キ思想 傳來的ノ概念ト雖、其ノ存在ノ理由アルモノハ、妄リニ之ヲ排斥スベカラズ。但シ其ノ思想ニ關スル從來ノ解釋、其ノ概念ニ就キテノ是迄ノ説明、若シ不十分、不徹底ナルニ於テハ、其ノ解釋ヲ十分ニシ、其ノ説明ヲ徹底セシムルコトヲ要ス。又舊キ思想、傳來的ノ概念ノミニテバ、不足ヲ感ズル場合ニハ、更ニ新ナル思想ヲ之ニ附加シ、新ナル概念ヲ開展セシムベキナリ。

蓋シ資本ト云フ語ハ、第一ニ個人經濟(個人トイフコト若シ語弊アリトスレバ、或ハ各個經濟ト稱スベキカ)ニ關スル用語ニシテ、第二ニマタ社會經濟(社會全體ノ經濟)攻究上ノ術語トシテ使用セラルルモノナリ。故ニ其ノ中ニ含マルル思想、其ノ表示スル概念ヲ十分明瞭ニシ、之ニ關スル解釋、説明ヲ眞ニ徹底セシメント欲セバ、(一)個人經濟、(二)社會經濟ノ兩方面ヨリシテ之ヲ考究セザルベカラズ。然レドモ本論文ニ於テハ、議論ノ復雜錯綜シテ餘リニ多岐ニ涉ルコトナ

カラシテコトヲ欲シ、暫ク問題ヲ簡單ニシ、主トシテ第一ノ方面、即チ個人經濟ノ上ヨリ見テ考究スル所アラントス。尤モ第二ノ方面、即チ社會經濟ノ上ヨリ見テノ考究ノ結果ハ茲ニ詳細ニ論述スルニ及バズト雖、予ハ以下ノ叙説ニ於テ此ノ第二ノ方面ヨリノ考究ヲモ顧慮シツツ立言スベシ。

主トシテ個人經濟ノ上ヨリ考究スル場合ニ於テ、同ジク資本ト云フモ、實ハソレニ凡ソ三ノ相異リタル意義ノ既ニ存在スルコトヲ認ム。其ノ三者ハソレソレ之ヲ區別シテ、

一、生産資本

二、營利資本

三、貸借資本

ト稱スベシ。此等ノ名稱ハ前人ノ書ニモ見エタル所ニシテ、予ガ今新ニ作りタルモノニハ非ズ。生産資本、營利資本、貸借資本、此ノ三者ハ先ヅ資本トイフ全體ノモノアリテ其ノ中ニ屬スル部門ナリトハ思フベカラズ、資本ハ生産資本、營利資本、貸借資本ノ三者ヨリ構成セラルルト云フ譯ニハ非ルナリ。此ノ三者ハ資本ト云フ全體ノモノノ小分ケニハ非ズシテ、三者各々資本ソノモノノソレソレ異リタル概念ヲ表示スルナリ。

按ズルニ資本ト云フ語ノ本來ノ要義ハ、「利殖ノ本源」ト云フコトナリ。「利」ヲ生ズル「本」ト云

フコトナリ。此ノ利殖ノ本源、利得ノ元本ハ、如何ニ使用セラレ、如何ナル働ヲ爲スカト云フニ、スベテニハ非レドモ、極メテ普通ニ生産事業ニ投下セラレ、將來ノ生産ヲ助成ス。是ノ故ニ學者主トシテ生産ノ問題ヲ研究スルニ當リテハ、先ツ専ラ生産事業ニ投下セラレ、將來ノ生産ヲ助成スル爲メニ使用セラルルモノニ注意ヲ集中ス、是レ第一ニ廣義若シクハ狹義ノ「生産資本」ノ概念生ズル所以ナリ。然ルニ日常ノ用語トシテハ、生産事業ニ投下セラレ、將來ノ生産ヲ助成スルト否トヲ問ハズ、スベテ資産ニシテ其ノ所有者ニ利得(所得)ヲ生ズルモノハ、之ヲ資本ト稱スルヲ寧ロ通例トス、學者又此ノ用法ヲ認メテ之ヲ探ラントス、是レ第二ニ利得ヲ生ズルモノトシテノ資本、即チ「營利資本」ノ概念生ズル所以ナリ。其ノ利得ノ生ズル場合ニ凡ソニアリ、第一ハ資産ノ所有者自カラ之ヲ使用シ、或ル事業(生産的・不生産的ヲ問ハズ)ニ投下スル場合ニシテ、第二ハ資産ノ所有者自カラ使用セズ、之ヲ他人ニ預ケ、又ハ貸附シ、利ヲ收ムル場合ナリ。第一ノ場合ニ於テノ利得ハ、元本タル資産ソノモノノ純利ノミナラズ、企業ニ伴フ危険、經營ニ伴隨スル勤勞ニ對ル報酬ヲモ合セ含ムベク、元本ニ對スル純利ガ頗ル單純ニ生ズルハ、第二ノ場合、特ニ貨幣貸借ノ場合ナリトス。(實ハ第二ノ場合、特ニ貨幣貸借ノ場合ト雖、「利」(普通ニ所謂利息、又ハ利子)ハ絶對ニ純利ノミニハ非ズ、保険料、及手數料ノ性質ヲ有スル分子ヲモ含ムトハ云へ)。故ニ分配ノ問題ヲ論ジ、特ニ普通ニ所謂利息又ハ利子ヲ生ズル本體ヲ考フルニ當リテハ、學者ノ

注意ハ、先ヅ主トシテ貸借、特ニ貨幣貸借ノ場合ニ集中セラル。是レ蓋シ第三ニ「貸借資本」ノ概念生ズル所以ナルベシ。

生産資本、營利資本、貸借資本、此ノ三ノ概念ハ右ノ如クソレンレ其ノ發生スベキ因由アリ、又學術上ノ用語トシテソレンレ其ノ存在ノ理由アルコトナレドモ、此等三ツノソレツレ異リタル概念ニ關シ、マタ二者ノ相互關係ニ就キテハ、普通ノ經濟書ニ説ク所、未ダ盡サザルモノアルニ似タリ。(或ハ極メテ精細明確ニ説ケルモノアルヤモ計リ難ケレドモ、予寡聞ニシテ未ダ之ヲ知ラズ)。依テ試ニ左ニ與見ノ大略ヲ陳ジテ、敢テ識者ノ是正ヲ乞ハント欲ス。

生産資本トハ自己ノ資産ナルト他人ヨリ借受ケタルモノナルトヲ問ハズ、企業者ガ生産的事業ニ投下シ、直接ニ生産ノ目的ノ爲メニ使用スルモノヲイフ。(企業ハ普通ニ營利事業ナレドモ、此ニ所謂企業者トハ、營利的ノ場合ノミナラズ、非營利的ニ生産ノ事業ヲ爲ス個人若シクハ團體ヲモ併セテ含ムモノトス)。例ヘバ農業ノ場合ニ於テ農具、耕作ニ使役セラルル家畜、肥料買入ニ使セラルル資金ノ如キハ生産資本ナリ。又工業ノ場合ニ於テ、工場、機械、及原料ノ購入・賃金ノ支拂等ニ使用セラルル所謂運轉資金ハ、生産資本ナリトス。

問フ、工業ノ場合ニ於テ出來上リタル製品ノ未ダ販賣セラレズシテ庫中ニ貯藏セラルルモノ、又商業ノ場合ニ於テ店舗又ハ倉庫ニ在ル商品ハ生産資本ナリヤ。答ヘテ曰ク、然リ、生産資本ナ

リ。製品又ハ商品ハ、其ノ他日販賣セラレテ需要者ノ手ニ移リタル時ニ於テ、將來生産ノ用ニ供セラルト否トヲ問ハズ、未ダ販賣セラレズシテ企業者ノ手ニアル限りハ、該企業者ガ其ノ事業ニ投下シタル運轉資金ノ或ル部分ガ、一時ソレニ形ヲ變ヘタルモノナリ。即チ該製品又ハ商品ハ、投下セラレタル生産資本ノ成形的表現ナルコト、例ヘバ原料ナドト毫モ異ルコトナク、矢張り一種ノ資本財貨ナリトス。(一層精細ニ云ヘバ生産資本ト其ノ利トヲ合セタル財團ノ一部分ガ、ソレニ於テ成形表現スト云フベシ)。但シ其ノ製品又ハ商品ニシテ、直接ニ或ル欲望ヲ満足センガ爲メ之ヲ消費セント欲スル需要者ニヨリ買取ラルトキハ、忽チ生産資本タル性質ヲ失フモノトス。

又問フ、土地ハ生産資本ナリヤ、答ヘテ曰ク、個人經濟ノ上ヨリ見ルトキハ、土地モ一種ノ資産トシテ、生産事業ニ使用セララル場合ニハ、生産資本タルコト、他ノ財貨ト異ルコトナシ、敢テ區別ヲ立テ、之ヲ除外スルコトヲ要セザルナリ。然レドモ社會經濟ノ上ヨリ觀、殊ニ經濟ノ發生・開展、財貨ノ生成・増殖ノ由來ニ就キ學術的考究ヲ遂グル場合ニ於テハ、土地(精密ニ云ヘバ人爲ノ施設・改良ヲ俟メズシテ土地ソノモノニ自然ニ存スル生産力)ハ第一次的ノ生産要素ニシテ、其ノ他ノ生産資本ガ、モト自然、及人力ノ結果タリ、若シクハ社會ノ發達ニ伴ヒ發生セルモノニ係リ、即チ第二次的生産要素ナルトハ、性質上ノ差異アルコトヲ認メザルベカラズ。故ニ此

ノ見地ヨリシテ考へ、此ノ方面ノ考究ヲ爲ス場合ニハ、生産資本ハ土地(精密ニ云へバ人爲ノ施設・改良ヲ俟タズシテ土地ソノモノニ自然ニ存スル生産力)ヲ含マズト見做スヲ適當トスベシ。是ニ於テ生産資本ニ廣狹二義ヲ生ズ。廣義ノ生産資本ハ土地ヲ含ミ、狹義ノ生産資本ハ土地ヲ含まズ、即チ狹義ノ生産資本ハ廣義ノ生産資本ヨリ土地ヲ除キタルモノトス。

以上専ラ生産資本ニ就キテ述ベタリ。次ニ營利資本ノコトヲ説クベシ。今茲ニ農夫アリ、若干ノ餘金ヲ有ストセヨ、農夫ハ之ヲ以テ、(一)肥料、又ハ農具、又ハ家畜ヲ買入レ、直接ニ生産ノ目的ノ爲メニ之ヲ使用スルコトヲ得ベク、或ハ又(二)之ヲ他人ニ貸附ケテ利子ヲ收ムルコトヲ得ベシ。二者何レノ場合ニ於テモ、其ノ餘金ハ農夫ニヨリ營利ノ爲メニ使用セラレ、彼レニ取リテハ、或ル意味ノ資本ニシテ、利得ヲ生ズ。然レドモ此ノ二ツノ場合ヲ合セ含メル意味ノ資本ハ、上ニイヘル生産資本トハ異リタル概念ニシテ、即チ所謂營利資本ナリ。營利資本トハ、スベテ利得ヲ收メンガ爲メニ使用セララルル資産ノ謂ナリ。

右述ブルガ如ク、營利資本ハ、其ノ所有者自カラ營利ノ目的ヲ以テ直接ニ之ヲ生産事業ニ投下スルコトアルベク、マダ然ラズシテ利子若シクハ賃貸料ヲ徴シテ之ヲ他人ニ貸附スルコトアルベシ。前ノ場合ニ於テハ、營利資本ハ同時ニ生産資本ナリ。後ノ場合ニ於テハ、營利資本ハ同時ニ貸借資本ナリトス。

營利ノ目的ヲ以テ直接ニ生産事業ニ投下セラルル資本ハ、營利資本ニシテ、且ツ同時ニ生産資本ナリト雖、生産ハ非營利ノニ行ハルルコトモアルヲ以テ、生産資本ニシテ營利資本ニ非ル場合モナキニ非ズトス。例ヘバ國家ガ損益如何ヲ問ハズ、製鐵所ヲ設ケテ鐵材ノ自給ヲ計リ、或ハ製絨所ヲ置キテ軍隊ニ支給スベキ特別ナル被服ノ材料ヲ自カラ製作ストセバ、其ノ生産ノ目的ノ爲メニ投下スル資本ハ生産資本ナルモ、營利資本ニハ非ル也。(但シコレハ全ク非營利ノニ經營セラルル官業ノミニ就キテイフ也)。其ノ他専ラ公益ヲ主トシ、或ハ慈惠ノ授産ヲ目的トスル場合、或ハ個人ガ特種貨物ヲ家内ニテ生産スル場合等、數ヘ來レバ生産ノ非營利ノニ行ハルル場合尙ホ種種アルベク、ソレ等ノ場合ニ於テ、生産ニ使用セラルル資本ハ、生産資本ナルモ、營利資本ニハ非ズトス。併シ乍ラ此等ハ今日ニ於テ特別例外ノ場合ニシテ、普通ニハ生産資本ハ同時ニ營利資本ナリ。

細カニ之ヲ論ズルトキハ、營利資本ニシテ生産資本ニ非ズ、又貸借資本ニモ非ル場合モアリ。何トナレバ資産ノ所有者、之ヲ他人ニ預ケ又ハ貸附クルコトヲ爲サズ、又生産事業ニ投下スルコトヲ爲サズシテ、而シテ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ生産的ナル或ル事業ニ投下スルコトアリ得ベケレバナリ。今普通ノ用法ニ從ヒ、有形財貨ヲ生産スルモノヲ生産的ト解スルニ於テハ、劇場ノ如キハ生産的事業ノ中ニ入ルベシ。一不生産的トハ必ラズシモ無用ト云フ意ニ非ルハ言ヲ俟タ

ズ)。浴場業、理髮店業ノ如キハ、甚ダ有用ナル營業ナレドモ、其ノ事業ハ、普通ノ解釋ニ從ヘバ、生産的事業ニ非ズシテ、不生産的事業ナリ。此ノ類ノ事業ニ直接投下セラレタル資本ハ、營利資本ナルモ、生産資本ニ非ズ、又貸借資本ニモ非ル也。

今日、營利資本ハ、其ノ如何ナル形ニ於テ存スルニ關ハラズ、普通ニ貨幣ヲ以テ評價セラレ、金額ヲ以テ表示セラル。然レドモ何時モ貨幣トシテ存スルニハ非ルナリ。貸借セラルル營利資本ハ最モ普通ニ貨幣ナレドモ、場合ニヨリテハ、工場、家屋、礫山、船舶等ナルコトモアルベシ。又直接ニ生産事業ニ投下セラルル營利資本ハ、其ノ投下セラルル以上ハ、所謂運轉資金ノ一部分ノ外ハ、貨幣以外ノ形ニ於テ存在スベキナリ。(運轉資金モスベテ現金トシテハ存セズ。或ハ原料トシテ、或ハ商品トシテ存ス)。

貸借セラルル營利資本ハ、營利資本ナルト同時ニマタ貸借資本ナレドモ、スベテノ貸借資本ハ必ラズ營利資本ナリトハ云フベカラズ。何トナレバ特別例外ノ場合ニ於テハ、單ニ安全ニ保管ヲ依頼スル爲メ貨幣又ハ物品ヲ他人ニ預ク、或ハ又慈善的、恩惠的ニ他人救濟ノ目的ヲ以テ貨幣又ハ物品ヲ貸附シ、利子ヲ徴セズ、貸貸料ヲ取ラザルコトモアレバ也。カカル場合ニハ、其ノ貸借セラルル貨幣又ハ物品ハ貸借資本ナレドモ、營利資本ナリトハ云ヒ難シ。

貸借資本トハ、資産ノ所有者自カラ使用セズ、之ヲ他ニ預入レ、又ハ貸附スルモノヲイフ。カ

クシテ預入レ、又ハ貸附セラレタル資本ハ、預リ人又ハ借受人ニヨリ、(一)或ハ直接生産事業ニ投下セラレ、(二)或ハ生産的ニ使用セラレ、(三)或ハ他ノ負債償還ノ用ニ供セラレ、(四)或ハ更ニ他ヘ貸附ケ、又ハ預入レラレ、(五)或ハ暫ク豫備トシテ其ノ儘手許ニ保留セラルルコトモアルベシ。第三及第四ノ場合ニ於テ、其ノ負債ノ償還ヲ受ケタルモノ、又ハ之ヲ更ニ借受ケ、若シクハ預リタルモノノ中、或ルモノハ、之ヲ生産事業ニ投下スベキモ、他ノモノハ、其ノ以外ノ目的ニ使用スルコトアルベシ。故ニ貸借資本ノ或ル部分ハ終ニ生産資本トナルベキモ、其ノスベテガ生産資本トナルトハ限ラザルナリ。

今日ニ於テ、公債、及市債ノ如キハ、貸借資本ノ顯著ナルモノノ中ニ屬ス。公債ハ生産的ニ使用セラルルコトモアレド、屢々軍備擴張、又ハ戦争ノ目的ニ使用セラル。市債モ亦生産的ニ使用セラルル場合少カラザルナリ。

以上述ブル所ニヨリ、生産資本、營利資本、貸借資本、此ノ三者ノ異同、及其ノ相互關係ハ、組々分明トナレリト信ズ。今之ヲ約言スレバ左ノ如シ。

一、普通ノ場合ニ於テ、生産資本ハ同時ニ營利資本ナリ、然レドモ特別例外ノ場合ニ於テハ、生産資本ニシテ營利資本ニ非ルモノアリ。

二、營利資本ニハ、(一)同時ニ生産資本タルモノ、(二)同時ニ貸借資本タルモノ、(三)生産資

本ニモ非ズ、貸借資本ニモ非ルモノノ三者アリ。

三、普通ノ場合ニ於テ貸借資本ハ、同時ニ營利資本ナリ、然レドモ特別例外ノ場合ニ於テハ、貸借資本ニシテ營利資本ニ非ルモノアリ。

四、貸借資本ノ或ル部分ハ、終ニ生産資本トナルベキモ、其ノスベテガ生産資本トナルトハ限ラズ。(因ニ云フ、生産資本ノ一部分ハ貸借資本ヨリ生ズルモ、其ノスベテガ貸借資本ヨリ生ズルニ非ルハ勿論ナリ)。

五、土地ハ廣義ノ生産資本ノ中ニ入ルモ、狹義ノ生産資本ヨリハ除カルルモノトス。(因ニ云フ、營利ノ目的ニ供セラルル土地ハ、營利資本ノ中ニ入り、賃貸セラルル土地ハ、貸借資本ノ中ニ含マルベキモノナリ。然レドモ土地ノ賃貸料、即チ地代ハ、普通ニ利子ト區別セラレ、又物品貸借ノ場合ヲ暫ク除外シテ、専ラ貨幣貸借ノ場合ヲノミ考フルコト多キヲ以テ、貸借資本ニモ廣狹二義アリトシ、廣義ノ貸借資本ハ土地・家屋・鑛山・船舶、其ノ他ノ物品ヲ含ミ、狹義ノ貸借資本ハソレ等ヲ除キ、専ラ貨幣ニ限ルト爲スモ亦可ナランカ)。

三者ノ中、生産資本ハ經濟學上専ラ生産論ノ考究ノ場合ニ採用セラルル資本概念ナリ。營利資本ハ實務家日常ノ用語ニ於テ普通ニ認メ得ベキ資本概念ニシテ、貸借資本ハ經濟學上分配論ニ於テ利子ニ就キ考究シ、金融ノ問題ヲ論ズル場合ニ、學者動モスレバ主トシテ念頭ニ置ク資本概念

ナリトス。

利子、及予ガ所謂「餘利」ニ關スル論議ハ、資本論ト密接ノ關係アルモノナレドモ、暫ク之ヲ他日ニ期ス。

以上予ハ重モニ個人經濟ノ上ヨリ見テ資本ノ二概念ヲ確定シ、其ノ如何ナル因由ニヨリテ發生シ、主トシテ如何ナル場合ニ用ヒラルルカヲモ指示シタリ。予ハ三者何レモ妄リニ捨ツベキニ非ズ、然レドモ能ク其ノ異同ヲ明ニシ、互ニ相混ズルナキヲ要スト思惟スルナリ。本論、臆見ノ梗概ヲ叙スルニ止マル、諸家ノ說ヲ引用シ、紹介シ、之ヲ論評スルガ如キハ、本論文ノ目的ニ非ルナリ。(大正六年二月十五日稿了)